

老朽化進む卸売市場 近隣市場の動向も踏まえ 将来を展望した方針を

問 明石市公設卸売市場の現状と将来展望について、市の認識を問う。

答 同市場は、平成27年度に指定管理者制度を導入し、海外販路の開拓や給食食材の提供など、積極的に取り組んでいる。現在、市場全体の取扱高は220億円を超え、地方卸売市場では



西日本2位の取扱高

西日本2位となっており。一方、同市場施設は、建設から40年以上が経過し、老朽化が著しく、修繕費に年間約800万円を必要とし、耐震基準も満たしていない状況だ。

このような中、加古川市公設地方卸売市場が令和3年度末に廃止する予定であるため、その業者を積極的に受け入れていくことにより取扱高は数十億円の大

認知症の予防 聴力低下に早期対応 補聴器購入の助成を

問 高齢者に対する補聴器購入費用の助成と高齢者や障害者が、安心して暮らし続けることができる特別養護老人ホーム(以下、特養)などの施設整備の必要性について、市の考えを聞く。

高齢者に対する補聴器購入費用の助成と高齢者や障害者が、安心して暮らし続けることができる特別養護老人ホーム(以下、特養)などの施設整備の必要性について、市の考えを聞く。

幅な増加となる。東播磨地域における生鮮食材の供給圏と消費圏の拡大も見込め、地域経済活性化の一助となる

ことが期待できる。市は、市場を取り巻く状況や将来性などを精査し、今後の方針を定める考えだ。

答 国は、加齢による難聴を認知症の危険因子としている。令和2年10月から認知症あんしんプロジェクトを開始した本市としても、聴力低下への早期の適切な対応が、難聴の発症や進行を遅らせる重要な要素と認識している。

そのため、高齢者に対する補聴器購入費用の助成に向けて検討している。

施設整備については、介護保険や障害福祉の次期計画に基づき、特養の整備やグループホームの設置を積極的に推進する。加えて、障害の特性に合わせた対応ができるよう、専門的な知識や技能を有する職員の確保・養成というソフト面の取り組みも進めていく。

深夜のごみ収集 人件費と騒音に課題 本市での導入は困難

問 深夜のごみ収集は、地域の防犯パトロールなどにつながるかと考える。実施することはできないか。

深夜のごみ収集を導入している自治体では、防犯上の効果や日中にごみ袋が置かれな

いことによる景観の向上、収集時の交通渋滞が緩和するなどの利点があると聞いている。

一方、深夜の収集は、労働基準法により25%以上の割増賃金を支払う必要があり、収集費用の大部分を占める人件費の高騰



より効率的な収集体制を

が懸念される。また、ごみ置き場は住宅地に隣接しているため、現在の収集と比べ、騒音などの苦情が増えること予想される。さらに、収集は特定の時間や場所で行うことから、防犯上の効果は限定的なものと考えられる。これらを総合的に検討した結果、費用対効果の面で、本市における深夜のごみ収集は困難と認識している。今後も引き続き、より効率的な収集体制について、研究していきたい。

特別養護老人ホームを整備 公共用地の活用も検討 入所待機者の解消が課題

問 特別養護老人ホーム(以下、特養)への入所待機者の解消に向け、来年度からの第8期介護保険事業計画では、

入所待機者の解消に向け、来年度からの第8期介護保険事業計画では、

入所待機者の解消に向け、来年度からの第8期介護保険事業計画では、

入所待機者の解消に向け、来年度からの第8期介護保険事業計画では、

の公募を行ったが、応募者はなく未整備のままであり、令和2年4月時点で174人の入所待機者がいる状況だ。第8期介護保険事業計画では、団塊の世代が75歳以上になる2025年を見据え、地域密着型特養にこだわらず整備を進めていく。その際は、建設地の確保に向け公共用地の活用も前向きに検討する。また、新たな施設整備に伴い、より多くの介護人材が必要となるため、資格取得に向けた費用の助成や介護資格を持つ65歳以上の人が介護現場に就職した場合の奨励金の交付を引き続き行う。

今後、介護人材の確保策を検討するとともに市独自の新たな取り組みを行いたい。

情報通信技術により さらなる市民サービスの向上を LINEの活用も検討

問 8400万人の利用者がいると言われるLINEを活用し、行政手続きサービス等の利便性を高める必要があるのではないか。

LINEを活用し、行政手続きサービス等の利便性を高める必要があるのではないか。

本市は、情報通信技術を活用し、子育て情報を手軽に得られるあかし子育て応援アプリの提供や遠隔手話通訳などで市民サービスの向上を図るとともに、市議会におけるタブレット端末の活用やRPA(業務を自動化する

システム)を用いた税務業務、オンラインの会議や研修など、業務の効率化もしている。LINEは、定住・移住に向けての市の魅力、保育士総合サポートセンターの研修やイベント等の情報発信ツールとして活用できる。さらに市税の納付は、今年度からLINE Payに



市税の納付にLINE Pay開始

認知症に やさしいまち 家族もサポート

問 認知症の人にやさしいまち明石の推進について、取り組みを聞く。

認知症の人にやさしいまち明石の推進について、取り組みを聞く。

本市は、令和2年10月から認知症あんしんプロジェクトを開始した。11月末時点で在宅介護支援金の申請は932件、そのうち認

知症サポート給付金の申請は約20%の2030件だった。

認知症の診断費用の無償化は、対象年齢を65歳まで引き下げ、若年性認知症の疑いのある人も含めた。さらに給付金受給者には、認知症手帳とサポート無料券を3年1月から送付する。

本市の認知症サポートは現在、1万2689人おり、学校や企

議員ふもやま話

近年の日本サッカーの発展は目覚ましい。正確には、強豪国のみならず、弱小国と呼ばれていた国においても技術や戦術が発展している。トップレベルのチームとそれ以外のチームの力の差が縮まっているとも言える。その理由は、指導者のグローバル化やインターネットなどの情報技術の革新にある。敵味方22人が入り乱れる戦いにおいて、勝つ戦術は誇張なしに無限にある。

では、体格的、体力的にも劣る日本人が勝つためにはどうしたらいいか。私は逆説的ではあるが、負け方の合意が必要と考える。決定力不足、体格や体力で負けたなどは局所的勝ち負けで、根本的な原因ではない。日本サッカー、日本人の特徴は、勤勉さと粘り強さにある。つまり、規律を守らず、持久力が劣っていたならば、勝てなくて当然だ。負けないうためにはどうすればいいかという共通認識が生まれたときに、日本は強豪国の仲間入りができるのではないだろうか。私が生きている間に、日本がワールドカップのトロフィーを掲げるのを目指したい。